

令和8年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（ スクールマネジメントプラン ）（ 計画段階 ）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【スクール・ミッション】 工業に関する専門学科、普通科を設置する高校として、主体的に社会の変化に対応できる確かな学力や専門的な知識・技能を身に付け、未来を切り拓くことができる人材を育成する。 【スクール・ポリシー】 1 探究学習や、ものづくりを通して、幅広い知識や専門的な技術を追究する力を育てます。 2 自分とは異なる価値観の人と交流することを通して、多様な考え方を尊重する力を育てます。 3 自分の興味や目標に基づいて、主体的に希望進路を見出し、実現する力を育てます。	1 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施すること、基本的生活習慣の確立に向けた指導を重点的に取り組んだ。今後も、学校生活全体のあらゆる機会を通して、教職員の一致協力指導の下、粘り強い指導を行い、安心して安全な高校生活を送れるよう、規範意識の確立と授業規律の徹底に基づく教育環境を整備する必要がある。 2 進路指導・学習指導について 進路決定状況は、就職においては、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、近年では、総合型選抜、学校推薦型選抜により早期に進路決定する生徒が増加し、高い目標を持ち続けて一般選抜まで粘り抜く生徒は減少傾向にある。学年段階に応じた、進学講習 や長期休業中の講習についても計画的に 実施し、基礎学力の定着や進学希望者の 学力向上に一定の成果が見られた。今後も、より細やかな指導が求められる。 3 部活指導等本校への帰属意識向上 自動車部が高校生ものづくりコンテスト自動車整備部門で全国7位、電気研究部が高等学校ロボット相撲選手権で近畿大会優勝となり、全国大会に出場した。また、ウェイトリフティング部が近畿大会に出場するなど、多くの部が熱心に活動している。一方で、部活動加入率は、減少傾向である。今後、様々な機会でも部活動の意義について理解させ、高校生活のさらなる充実を図りたい。 4 地域連携・広報等について 京田辺市と連携に関する協定を生かし、工業に関する専門学科と地元企業との連携事業を、工業科全体のものとして実施する中で、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、在籍生徒主体の学校説明会を実施したり、中学校の進路学習会に参加したりするなど、本校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を継続して実施した。今後さらに魅力ある教育内容の広報活動を積極的に展開し、学科改編の方向性について、戦略的な広報活動を推進し、理解促進と志願者確保につなげていきたい。	「思いやりの心を育み、自ら考え行動し、未来に向かって挑戦する生徒を育成する。」ことを基本方針とし、令和9年度の学科改編および入試制度の変更を見据え、教育活動の充実と円滑な移行に向け、以下の重点項目に取り組む。 1 思いやりの心と主体性の育成 生徒の多様な個性と能力を尊重し、自己肯定感を育む教育を推進する。人権教育や特別活動の充実を通して、他者を尊重し、協働する態度を養うとともに、自ら考え行動する力を育成する。あわせて、基本的生活習慣の確立と安心・安全な教育環境の整備に努める。 2 学力向上とキャリア教育の一体的推進 ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。探求的な学習の充実を通して、学力の向上を図るとともに、資格取得支援や進路指導を強化し、進学・就職の双方に対応したキャリア教育を推進する。あわせて、学科改編を見据えた教育内容の検討を進める。 3 学校生活の充実と生徒支援の強化 部活動や放課後活動の活性化を図るとともに、教育相談体制の充実や関係機関との連携により、生徒の心身のケアを組織的に推進する。生徒一人ひとりが安心して学び、充実感を得られる学校づくりを進める。 4 地域連携と学校の魅力発信の推進 地域や企業等との連携を深化させ、地域に根ざした教育活動を展開する。また、本校の特色や教育活動、学科改編の方向性について、戦略的な広報活動を推進し、理解促進と志願者確保につなげる。 5 組織的な教育活動の推進 各分掌・教科・学年の連携を強化し、全教職員が一体となった組織的な教育活動を推進する。特に、学科改編および入試制度変更に向けた校内体制の整備と共通理解の醸成を図る。

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
副 校 長	組織運営	思いやりの心を育み、自ら考え行動し、未来に向かって挑戦する生徒を育成する教職員を支援できる学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にし、全教職員が一体となった組織的な教育活動を推進する。				
			適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努め、教職員が自ら健康に着目する機会をつくる。				
		普通科・工業に関する専門学科の特色ある教育活動の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携を、より一層推進する。				
			本校の特色ある魅力的な教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。				
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に積極的に関与しこれを実行する。				
	文書・情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理を行う。				
	就学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介。				
	維持管理及び学校環境の整備	安心・安全、学習環境の充実に向けた取組	老朽化や緊急性を踏まえ効果の高い改善策の検討と実行。 緊急事態発生時に柔軟な対応を行うことで生徒の安心・安全確保に努める。				
	財務及び会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保。 適時に必要な予算を担保し学校運営に携わる。				
教 務 部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実。	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。				
			公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。				
	情報管理	生徒情報の円滑な管理。	校務システムを円滑に運営するとともに、個々の情報の適切な管理を図る。				

生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実。	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。 生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。 各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。				
	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。 部活動を活性化させる。 生徒会・ボランティア活動を活性化させる。				
	人権学習	人権意識の高揚及び実践的態度の育成と人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。				
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。進学講習・長期休業中の講習を積極的に実施する。 自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業と連携を密にし、就職指導の充実を図る。 昨年度に引き続き、就職率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう指導の内容については、就職模試や就職セミナー等を通して改善・整理していく。				
		保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。				
教育推進部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	本校の理解と関心を高め、入学希望者の増加を図るため、学校説明会や部活動体験等を計画的に実行する。特に工業に関する専門学科については、教育内容や特色を多面的に発信し、理解促進に努める。また、各種実施後にはアンケート等を活用して参加者の反応を分析し、次回以降の広報活動や中学校との連携強化に反映させる。 本校の広報機能を強化するため、まずは学校ホームページの内容と機能を充実させ、タイムリーかつ魅力的な情報発信を行う。あわせて公式YouTubeについても補完的な広報手段とし、生徒の活動や学校の魅力を校内外に広く発信				

			する。				
	I C T 教育	I C T教育の推進	学習用タブレット端末の効果的な活用を図るため、教材研究や授業研究における意見交流を促進するとともに、研修会や講習会等の情報共有・参加を適切にマネジメントし、教育活動の質の向上に努める。				
		ICT機器の整備と管理	タブレット端末等のICT機器を適切に管理する。				
	読書活動	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行い、生徒の興味関心や学びにつながる新着図書や推薦図書については、効果的な情報発信・広報につなげる。図書館が生徒のニーズに応じて機能する場となるよう、利用しやすい環境の整備を推進する。				
		視聴覚機器の整備と管理	視聴覚機器を適切に管理する。				
	特別活動	芸術鑑賞の実施	生徒が芸術鑑賞に関心をもって主体的に参加できるよう、事前学習の取組内容を工夫する。				
			プログラム内容について、事前に関係業者と打ち合わせを十分に行い、生徒の興味・関心に寄り添った内容とする。				
			次年度の演目について、教育的効果を踏まえて検討し、適切な時期に決定する。				
保 健 部	健康安全 教育の推 進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。				
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。				
			特別支援教育会議を定期的に関催し、不登校傾向やつまづきのある生徒を早めに把握し、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。				
		校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように掃除道具の整備・補充を行う。				
			グリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。 ゴミの分別推進、ポイ捨ての防止への啓発を促進する。				

工業部	工業教育の充実と発展	各学科、工業に関する専門学科の認知を高める広報。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制を整えるため、4学科協働的な組織運営を目指す。				
		各種資格・検定等の取得率向上	新学科に関する、カリキュラムの詳細決定や広報などを通して新学科の認知度を向上させる。				
			資格取得や検定の合格率を上げるための講習内容を充実すると共に、取得意欲を高める生徒指導を志す。				
			教員の技術向上に向けて、ベテラン教員の技術指導や若手教員の技術交流などを積極的に行う。				
		事業所や大学等における、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。 事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。				
第1学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。				
		自身の進路選択を明確にする取組を行う	進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。				
	生徒指導 特別活動	規律を守る自主・自立の態度を育成する	社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。				
			委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。 学年スローガン「競争力～明日にでも社会に出られる人に～」を意識させ、学年で統一した指導を行う。				
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。				
第2学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有し、それにもとづいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。				
		自身の進路選択を明確にする取り組みを行う	進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。				
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度を育成する	社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。				
		自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさ				

			せる。 学年スローガン「田辺pride ～田辺高校生として～」を意識させ、学年で統一した指導をおこなう。				
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。				
第3学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。				
		自身の進路希望を実現する取り組みを行う	進路指導部と連携をとりながら、丁寧に面談等を行い、全員の希望進路の実現を目指す。				
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度を育成する	社会や学校の規則を遵守する意識を高めるため、一致した指導・対応を行い、成人年齢に伴う責任を自覚させる指導をする。				
		自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	委員会活動、学校行事、清掃活動等に積極的に参加させ、一人ひとりが役割を果たせるよう指導する。				
			学年スローガン「いつでも本気 いつでも本番」を掲げ、学年で統一した指導を目指す。				
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌・教員との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。				

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）

令和8度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語	学習指導	基礎学力と学習習慣の定着に効果的な指導のあり方を模索する。	基礎的な国語力の涵養を目指し、家庭学習を促すような課題を設ける。そして家庭学習が結果につながるようフィードバックを行い、確かな国語力が身につくように指導を工夫する。				
			伝統的な言語に関する文化に親しむ態度を育成するための取り組みを行う。				
	進路指導	進路指導との連携を意識した授業内容の構築・精選を行う。	長期的な視野に立った体系的な内容の授業構成を行う。確かな「書く力」を身につけさせるため、1年次から表現する力を養う。				
			授業と進学補講の内容に関連性を持たせる。				
	指導力向上	国語科教員間の連携を密にして知識や指導方法等を共有し、全体的な指導力の向上を図る。	授業を担当する教員によって授業内容の偏りが出ないように、教材や学習課題等をこまめに共有し、授業の進捗や定期考査についての打ち合わせを密にする。				
			ICTを活用した授業を実践し、生徒にとってわかりやすい授業となるように工夫する。				
地歴公民	学習指導	ICT活用の推進、授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出して基礎学力を定着させる。 探求活動の充実を図り、生徒の主体的に学習する態度を涵養し、地域理解と多面的な歴史観を身に付けさせる。	授業の中で意識的に問題提起を行い、生徒に考察させる状況を設定し、発表の機会を多くする等の工夫をする。また、課題を課して、提出することを習慣づけて、学習内容の定着を目指す。 現代社会の諸問題について多面的に捉え、それに繋がる歴史的な背景を理解して主体的に考察して問題解決を図れるように指導を進める。 担当教員間の連携を密にして、共通教材の整理を進める。				
	進路指導	進路希望実現のための実践力養成を図り、進学補講の内容を充実させる。	講座の特性に応じて体系的な指導を図る。考査問題や演習に工夫を加え、実践力向上を図る。 大学入学共通テスト受験者増加と得点上昇を目指す。				
	指導力向上	充実した授業展開ができるように、教員間の連携を深め、指導力向上を図る。	教科会議で指導方法や評価方法、教材等の交流を深め、授業への反映を進める。 教科内研修を積極的に実施して、学習指導等に活かす。				

数 学	学習指導	各生徒の基礎・基本の学力を定着させ、幅広い層の生徒の学力向上を図る。	基礎的な演習を丁寧に行うことで、基礎学力定着を図る。				
			定期的な小テストの実施、課題を通して定着度の確認を行い、生徒一人一人に合わせた指導を行う。				
	進路指導	数学を通して、卒業後の展望をイメージする一端を担う。また、希望進路の実現に向け、実践的な学力を身につけられるような学習の展開を目指す。	社会生活における数学の活用例を提示するなど、数学と日常を結びつけて進学・就職に対する意識づけにつなげる。				
			進路実現に向けた実践力を身につけさせるために、授業で積極的に応用問題に取り組む時間を設ける。				
	指導力向上	学科・コース・講座の実態・目標に対して適切な授業が展開できる指導力の向上に努める。	計画的な授業展開、柔軟な指導が行えるよう、学科・コース・講座の特性を理解し生徒の実態に応じた学習を目指す。				
			PDCA サイクルにより、授業の改善に努め、より一層「わかる授業」を目指す。				
理 科	学習指導	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する知識・技能を身につけさせる。	授業や実験を通して、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりさせる。				
		学習意欲を喚起し、科学的に探究しようとする力や態度を養う。	観察・実験を行う際、目的を理解し、予想や仮説を立て、それを検証するための観察、実験を行わせる。				
			科学と日常生活や社会との関わりについて触れ、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、総合的に判断しようとする態度を養う。				
	進路指導	進路実現に向けた指導を行う。	進学補講の在り方として、進路実現に必要な個々に応じた対策・取り組みをサポートする。				
	指導力向上	わかる授業を目指す取り組みを進める。	授業や実験などでICTを利活用し、より探求的な活動ができる環境を作っていく。				
			生徒の興味・関心を高める授業の在り方について、同一科目担当者だけでなく、科目・教科をまたいで交流する。				
保 健 体 育	学習指導	体育では運動実践を通じて、保健では学習実践を通じて、心身ともに成長を促すよう指導する。	運動全般に積極的に参加する態度と習慣を身につけさせるとともに、基礎体力を向上させ集団の秩序を確立するための基本的な行動や習慣を身に付けさせる。				
			自己の運動実践について振り返りをさせ、生涯スポーツ及び今後の社会生活で必要となる知識の定着を図る。				
	指導力向上	ICTを積極的に活用した授業展開を工夫する。また、主体的・対話的で深い学びを目指した、確かな学力の定着を目指した授業をクリエイトする。	視聴覚教材やICT機器を積極的に活用し、生徒の視覚に訴えかける授業内容を展開するなど、学力の定着に向けた授業改善に取り組む。				
			主体的・対話的で深い学びを目指した授業展開ができるように授業内容を工夫する。				

			生徒自らが自身のつまずきや課題に取り組むことができるような授業の展開をする。				
芸術	学習指導	基礎的な知識と技術を身に付け、その向上と学習習慣の確立を図る。	生徒の興味や関心に応じ、幅広い内容の題材を取り上げ、意欲的に授業に取り組めるようにする。				
			学習習慣を確立させる。(時間を守る、授業に対する準備、後片付けをする、自主的に補習に来るなど)				
			授業の充実を図るため、施設・設備・機器・用具の整備に努める。				
	進路指導	要望に応じ、進路実現に向けた指導を行う。	個々の要望に応じて、芸術・保育・教育関係などへの進学を希望する生徒に対し、実技指導などを行う。				
	指導力向上	芸術4科や他教科と、連携を深め、指導力向上を図る。	各教科での取り組み内容を共有する、研究授業や公開授業週間などを活用するなどし、芸術4科内だけではなく他教科の取り組みにも向け、指導力の向上を図る。				
			ICT機器を積極的に活用し、その成果を共有する。				
英語	学習指導	基礎学力の定着と主体的に学習する態度の育成を図る。	生徒一人ひとりの個性や進路希望に応じた基礎学力の定着を図る。				
			成績不振者に対する補習授業を充実させる。				
			提出物の期限内提出の徹底や授業に積極的に参加する態度を育成する。				
	進路指導	進路実現に向けた指導を行う。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路補習の充実を図る。				
			英語検定の受検を促し、合格に向けてサポートする。				
	指導力向上	ICTを効果的に利用し「わかる授業」を目指す。	本年度より英語学習AIが導入されるにあたり授業での効果的な活用の研修を進める。				
家庭	学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	わかる授業をめざし、教材の工夫や効果的な指導方法を検討する。				
			授業に集中できる学習環境をつくり、プリントや課題・作品の提出を粘り強く指導する。				
	進路指導	希望進路の実現に向けた指導を行う。	保育・調理・食物・被服関係の進路を目指す生徒の指導を行う。				
	指導力向上	分かる授業づくりを目指し、研修を深める。	担当者間の交流を深め、指導方法の改善を図る。				
			研究会に参加して教育実践に学ぶ。				
			ICTを活用した授業を検討し、実践する。				

情報	学習指導	情報社会を生きる上で必要となる基礎基本を習得させる。	個人情報保護管理や知的財産権の順守、ネットマナー、情報モラル等の社会的な常識を習得させる。 ワープロ、プレゼンテーションソフト、プログラミング等を用いた実習を通して、パソコンの十分な活用能力を向上させる。				
	進路指導	自身の個性や能力を伸ばし、進路実現に向けた各種技術・能力の習得と向上を図る。	生徒の得意な分野を情報の科学によって表現・発信し、自身の個性や能力を客観的に理解させ更なる成長を促す。 情報に関する各種資格取得の呼びかけ。特に日本語ワープロ検定試験を積極的に受検させる。				
	指導力向上	「できた」と実感できる授業を展開する。	毎回の学習や実習を通して、「できた」ことが実感できるような授業を実践する。				
工学探究	学習指導	学科の特色を生かし個に応じた指導の推進。 新学習指導要領の新観点に対応した指導の確立。	生徒の能力や個に応じて補充・補習を行うことで、学科全体の学力の底上げを図る。 学校内で連携を図りながら新学習指導要領の新観点に対応した生徒の指導方法や評価方法等を、授業を通して確立させる。				
	進路指導	理工系の新たな分野に対する進路開拓の取り組みの推進。	デザイン系・材料系など、従来なじみのなかった分野と高大連携で関係を密にすることで、生徒の新たな進路への関心を広げる。 大学の入試に関する情報発信や進路説明会等を通じた情報収集をすることで、進路開拓や新たな入試形態等について、教科間で共有し生徒の進路指導に活かす。				
	指導力向上	ICTを活用した指導力向上の推進。	iPadによる授業やICT機器の導入により、より効果的な指導方法を検討し、教科間の情報を共有することで指導力向上を図る。				
機械技術	学習指導	基礎学力の向上と定着を図り、金属加工に関する知識・技術を習得させる。 各学年の特徴に沿った決め細やかな指導を行う。	学習習慣を確立させ基礎学力の向上を図ると共に、身だしなみや振る舞いなどの一般的な社会マナーの教育も同時に行う。 座学・実習はもとより、事業所等での工場見学・就業体験、ものづくりマイスターの招聘等を活用するなど、学習意欲を高めると共に、ものづくり・金属加工に対する興味・関心を引き出す。 授業担当者の垣根を越えて、機械技術科で行う全授業が横断的な学びになるよう、授業内容の検討を行う。				
	進路指導	機械技術科の特色を活かし、希望進路の実現に向けた指導を粘り強く行う。	各種検定・資格の取得を積極的に取組ませると共に、事業所・専門校との連携を通して、就職・進学への意識・意欲を高める。				

	指導力向上	一枚岩の指導を徹底する。 経験豊富なベテラン教員から 若手教員への技術伝承。	担当者・担任との連携を密にし、そのクラスに沿った教科 指導を実践、改善、発展させ教科指導の充実を図る。 それぞれの教員が持つ専門知識をフルに活用した実習・課 題研究ができるよう授業の割り当てを考える。 技術力の高いベテラン教員が増えたので、若手教員へ技術 が伝わるよう、技術講演会などを実施する。				
電 気 技 術	学習指導	工業技術、特に電気技術に対す る興味・関心を喚起し、意欲的 に学習する態度を身につけさ せる。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の 高い指導体制について具体的な検討を進める。 教員個々の指導能力向上を図るためにICTをはじめ、効果 的な指導方法の構築を目指す。 産振で配備された機器の取り扱い方や実験モデルなど取 り扱いを共有し、扱える教員を増やす。				
			資格取得や検定の合格に向け、講習会等、補習・補講が効 果的に行えるように設計・計画し実施する。 各種競技会の実施に向けた体制を整備する。				
			事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・ 立案・実施する。 事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等 を計画的に実施する。				
	進路指導	電気技術者としての進路を考 えることができ、進路選択がで きるようになる。					
	指導力向上	実験実習装置などの教材研究 を進める。外部講師による最新 の技術を採り入れる。					
自 動 車	学習指導	学力向上を図る。	授業に集中できる生活習慣を身に着けさせる。 基礎学力を定着させる。				
		興味・関心を引き出す。	専門的な知識を身につけさせる。 自動車に関する興味・関心が向上する授業を行う。				
	進路指導	個性や能力を伸ばす。	資格・検定の取得に積極的に取り組ませる。 各種競技会に積極的に参加させる。				
		進路に対する関心を持たせる。	大学・企業との連携を推進する。 自動車に関する職業に対する興味・関心が持てる指導を行 う。				
	指導力向上	生徒が理解しやすい授業を行 う。	現物や写真・イラスト・動画等を積極的に活用した授業を行 う。				
		生徒の学力に応じた指導を行 う。	基礎的な数学・理科の内容を理解させる。 個別の進捗段階に応じた課題に取り組ませる。				

評価

A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）